

# 留学報告書

工学系研究科 1年  
宮崎 邦洋

私は 2013 年 9 月～2014 年 2 月までスイス、チューリッヒの ETH Zurich に交換留学をした。

学科は D-MTEC (Department of Technology, Economics and Management) であり、現地の修士の学生達と授業を一緒に受講した。

以下内容である。

## 1, 準備段階

2013 年 1 月から準備を始めた。既に院進を決めており、大学院での予定を立てていた時に留学を考えていた。そこで、工学部の留学がまだ申請可能であることを知ったことがきっかけであり、申し込むことにした。この時期に TOEFL も申し込んだ。

卒論と並行で準備をしていたこと。留学だけでなくサマースクールにも申し込みの準備をしていたこともあり、準備は非常に大変だった。

これから行く人は繁く事務局の人と連絡を取ることをお勧めする。実際丁寧に対応して頂けた。

## 2, 行ってからの学校生活

チューリッヒ州の Dietikon という場所の寮に住んでいた。寮に日本人は 4 人 (30 人中) おり、住居許可申請などの手続きは情報交換しながら行った。

スイスは物価が非常に高く、外食は殆どできないほどであった。そのため、自炊を多くしていた。野菜などは安かった。人件費が値段の多くを占めるからである。それでもドイツに比べると物価は高いため、よくドイツの南端の街まで買い出しに行っていた。25 歳以下の学生は夜 7 時以降電車が無料で乗れる年間チケットがあり、それを購入するとその買い出し場まで無料で行けたので、多い時は週に 1 回のペースで買い出しをしていた。

## 3, 授業について

D-MTEC の授業を受けていた。経済系の授業はあまり学部時代に受けてこなかったので、TMI (技術経営戦略学専攻) で受講可能な経営系よりも優先して受講した。

大学院の授業は全て英語である。海外からの留学生が非常に多いので、ドイツ語を喋ることはなかった。

## 4, 学校以外の時間

スイスはヨーロッパの中心であり、旅行しやすい場所にあつたので、週末などの時間は国内、国外問わずに旅行した。

また時期的にスキーシーズンであつたので、スキーもした。

#### 5, インターンについて

D-MTEC では多くのインターンの説明会が開かれる。D-MTEC の性質上、その多くはコンサルティングファームのものである。

しかし、ビザの関係上私は労働ができないため参加しなかった。

#### 6, 就職活動について

スイスでは、労働が半年以上滞在した学生しか認められなかったため、就職活動を行わなかった。

学生によっては、9月に行われるボストンキャリアフォーラム、11月に行われるロンドンキャリアフォーラムに参加している学生もいた。

#### 7, 論文について

授業を受けていたため、論文は書かなかった。

学生は基本的に申し込む段階で論文を書く（授業も受講可能）、授業のみを受けるかを決められるが、先生との交渉によっては渡航後も論文を書くことは認められるようであった。

実際、1年間の留学をしていて、最初の半年授業を受け、最後の半年で論文を書くなどの変更をしている学生もいた。